



謹恐長年の遠に及ぶ  
 加ふるに所望もせざる我  
 諸君の事書はりて而旅  
 中まゝのしつらに明後書  
 而して中へ又お母様より  
 拝内主へ慰め書も馬贈り  
 ありしに志はしなその中  
 至五十四圓を回劇向へ入  
 市寄附ありて千の餘りの全  
 額を博物館建てる費のふ  
 足額補填のよめ母様へは提  
 供にお成中へふりて母様の  
 立替りもな全部帳消しとあり  
 向ふ金は其五圓を増加したる  
 次年のしつらに右其五圓をふ  
 取三菱信託へ預け入申しは  
 以半の量あり。其五圓の取扱方つるま





以半重りの。基重の取扱方つら  
所指定も仰るなり小重と  
第一隣具々の中に挿入小重  
手も引をふつづれ所喜見に  
従い理し法氏の所扱儀  
乙式にすはと(何)なる有  
切は坪内先生の所中え  
所重り名重り少重り名重り  
感謝状も重り一重り  
この重り重り重り重り重り  
亦取扱不し重り重り重り  
重り

長重り重り

重り

市島先生  
机下